

リーダーズ・サマースクールの実践

阿 濱 志 保 里
平 尾 元 彦
吉 村 誠

要旨

本報告では4大学間教育・研究交流連絡協議会主催の4大学間（島根大学・山口大学・高知大学・愛媛大学）共同事業「学生リーダーズ・サマースクール」の実施報告を行う。また、事業終了後、サマースクール参加者によって山口大学で実践・実施された「新・山口明倫館～山口大学版リーダーズ・サマースクール～」の実践報告を行う。

キーワード

リーダー育成，リーダーシップ，サマースクール

1 はじめに

島根大学・山口大学・高知大学・愛媛大学の4大学では、「教育・研究の交流に関する協定」を平成11年に締結し、教育・研究の各分野において、交流を図っている。平成21年度より4大学間教育研究交流協議会において、従来の交流会の主旨を尊重・継承しつつ、さらなる学生の交流を広め、発展させていくために、これまでの「学生交流・自主的研究プロジェクト」から「学生リーダーズ・サマースクール」が実施されている。それに基づき、本年度も昨年に引き続き、9月15日から1泊2日の日程で愛媛大学教育・学生支援機構能力開発室主催で実施された。本年度は4大学間（島根大学・山口大学・高知大学・愛媛大学）の大学からだけでなく、京都文教大学や松山大学のからの参加学生の様子が見られた。本学からは8名の学生と2名の職員が参加し、研修を行ってきた。さらに、4大学間「学生リーダーズ・サマースクール」終了、山口大学生を対象に、山口大学版リーダーズ・サマースクールを実施した。

2 リーダーズ・サマースクール

2.1 募集方法とその経緯

学内における参加者募集は4大学間教育・研究交流連絡協議会の日程が決定後、5月下旬よりそれぞれのキャンパスにおいて参加者の募集を行った。さらに、8月上旬に吉田キャンパスにおいて、説明会を開催した。（学部にはテレビ会議システムを利用）その結果、18名の参加希望者が集まった。参加希望者には自己PRと参加目的を1200字程度のレポートを提出してもらい、それをもとに書類選考を行った。その結果、8名の学生が参加することになった。参加学生の所属・学年を表1に示す。

参加者が決定後、出発前日に学生自主活動ルームに集まり、学生同士の事前の顔合わせを行った。昨年度の傾向から、事前に山口大学からの参加者同士を知っていることで、より効果的な事業の実施が行われると示唆され、今年度は事務連絡を兼ね、事前に参加者同士の意思の疎通をできる場の提供を行った。

当日は2名に司会進行を行い、事前を知っ

表 1 参加学生の所属

所属	学年	人数
理工学研究科	1	2
教育学部	2	1
	4	2
経済学部	2	2
	4	1

ておきたいことなどの情報交換を学生自主活動ルームで行った。工学部からの参加者もいるため、当日の顔合わせの内容はメールなどを用いて情報共有を図った。当日は、7名の参加があり、学生同士で情報交換や事前の課題の確認などを行い、山口大学からの参加者としての意識を高めることができたと考えられる。当日の様子を図1に示す。



図 1 事前顔合わせの様子

2.2 プログラム内容

4 大学間共同事業「学生リーダーズ・サマースクール」が9月15日から16日の1泊2日の日程で愛媛大学および松山市中島B&G海洋センターにて行われた。愛媛大学でのプログラム・日程表を表2に示す。

表 2 リーダーズ・サマースクールの日程

第I部 プログラム (1日目)	
時間	活動内容
9:00	愛媛大学正門集合
9:30	愛媛大学正門出発
10:25~11:30	フェリー移動 (フェリー内でグループ活動)
11:45~12:30	B&G 海洋センター入所式 昼食 オリエンテーション
12:30~13:00	アイスブレイク チーズ作り
13:00~16:00	チーム・ビルディング研修
16:00~18:00	夕食作り 食事
18:00~19:00	テント貼り
19:30~	キャンプファイヤー 振り返り
第II部 プログラム (9月16日)	
時間	活動内容
7:00~7:30	ラジオ体操 ミーティング
7:30~8:00	朝食
8:30~11:00	リーダーシップ・ビルディング 研修
11:30~13:30	昼食 振り返り 片づけ
13:30	姫が浜ビーチ出発
14:10~15:20	乗船 (フェリー移動)
15:20	愛媛大学へ移動
16:00~17:00	全体で振り返り

参加者は4大学参加大学以外にも、京都文教大学、松山大学からの学生の参加していた。また、大学関係者としての教職員17名の参加も見られた。愛媛大学スタッフも含め、総勢30名以上で実施された。

学生はそれぞれ 4~5 名程度のグループに分けられ、与えられた課題をこなしていく中で、リーダーシップ能力を育成していくことが目的である。多くの学生が事前に知らされていたこと以上に学生たちには多くの課題が出され、時間内にこなしていくことが求められた。

プログラムでは、離島において、野外活動を中心に課題が与えられた。活動の様子を図 2, 3 に示す。



図 2 活動の様子 1

図 2 では学生がロープワークを行っている様子である。事前に班の数名が研修を受け、その後、班全員に研修内容を伝達し、班全員がテストを受け、クリアするという形式をとっている。



図 3 活動の様子 2

図 3 では、島を一周し、それぞれ決められた場所で写真を撮ってくるという課題に対して、どのようにして解決するかを話し合っている様子である。

プログラムスタート時点では、与えられた課題をどのように分担し、時間内に解決するかを悩み、学生の予想以上に課題があることに精一杯取り組んでいる姿が見られた。さらに、課題に対して時間的に迫られてくると、精神的に大きな負担が見られ、不平・不満などが聞かれた。しかし、大学の教職員たちは事前に学生たちへの積極的な関わりはしないで、「空気」の存在であることを事務局より求められており、見守ることに徹するように指示をされている。そのため、学生からの質問を答えず、自ら解決するように促すにとどめた。

活動進めていくうちに、「チームのメンバーのみで解決しなくてはいけない」ことを理解し、問題解決に積極的に取り組む姿勢が見られた。

1 日目の夜の振り返りでは、班を担当するスタッフ（大学関係者）からはかなり厳しい意見が学生に伝えられた。これも「ほめることではなく、的確な指摘をするように」との愛媛大学からの支持を受けていた。実際に学生同士の指摘では相手を傷つけないようなコメントや、いいところをほめるようなコメントが頻繁に見られたが、スタッフ側からの厳しいコメントにびっくりしている学生も多かった。しかし、多くの学生が厳しいコメントを受け、スタッフと学生との反省会后、自ら反省会を行い、明日以降の活動について前向きな活動につなげようとする試みを感じた。

2 日目は 1 日目のチームワークを試す意味を含めて、カヌーのチーム対抗戦が行われた。それぞれのグループが得たチームで働く力を生かす工夫をしている様子が見られた。

最終日には時間をかけての振り返りが行われ、学生一人ひとりに対して、今後の改善点

などを2日間の言動を踏まえて、振り返りが行われた。他者からの振り返り、自己の振り返りを踏まえ、それぞれが学んだリーダーシップを発表し、終了した。

2.3 学生への成果と効果

リーダーズ・サマースクールに参加した学生は他大学との交流において、強く刺激を受けた様子が見受けられた。特に、他大学の意欲的な学生の中での実践型プログラムは得たものが多かったという意見が聞かれた。しかしながら、還流の方法について課題が残った。

3 新・山口明倫館～山口大学版リーダーズサマースクール～

3.1 プログラム開発

愛媛大学のリーダーズ・サマースクールを受け、参加した学生を中心に「山口大学版リーダーズ・サマースクール」を9月29日に行った。学生たちは愛媛から帰学後からすぐにプログラム内容の開発に当たった。愛媛大学でのプログラムでは離島に渡り、海洋センターなどの協力を得て、実地指導などをお願いしたが、時間的な問題や、学外への移動に関しては難しい現状もあり、1日のみで山口大学構内での実施を行った。準備は2週間という限られた期間であること、吉田キャンパスと常盤キャンパスの学生がいたため、それぞれが役割分担を決め、プログラム内容への決定へと向かった。準備の様子を図4に示す。

プログラム開発に当たっては、参加者がチームで力を合わせて取り組めるだけでなく、それぞれの特性や特技を生かすことのできるように工夫をした。また、学内のすでにあるコンテンツを利用することから、プログラム開発を行う学生自身も学内施設などの環境を把握する必要が見られた。プログラム内容を表3に示す。



図4 準備の様子

表3 プログラム

時間	活動の内容
9:30	参加者受付
10:00	チームに分かれてワーク
10:40	開会式
11:00	指令開始 昼食、作戦会議 1st ステージ開始
14:30	指令最終ステージ
15:30	グループでの振り返り
16:00	全体での振り返り
16:50	閉会式

新・山口明倫館として名づけられた山口大学リーダーズ・サマースクールは共通教育棟2階の外国語研修室を拠点に開催された。参加者は20名、スタッフ10名の役30名で行われた。参加学生の所属と学年を表4に示す。

参加学生は4～5人で1つのグループ構成に加え、愛媛大学でリーダーズ・サマースクールに参加した学生や昨年度(2009年度)にリーダーズ・サマースクールに参加した学生がグループの支援にあたった。山口大学版リーダーズ・サマースクールの当日の様子を図5, 6に示す。

表 4 参加学生の所属

所属	学年	人数
教育学部	1	1
	2	3
経済学部	1	1
	2	2
	3	7
	4	1
理学部	1	1
	3	1
人文学部	4	1
農学部	3	1
理工学研究科	1	1



図 5 活動の様子



図 6 活動の様子

参加した学生は与えられた課題をチーム内で分担し、解決するごとに、次へのステップへの情報やアイテムを獲得していった。最終的にはグループごとに「4人5脚（もしくは3人4脚）」を行い、優勝したチームが1位となるようになっていたため、課題をクリアするごとに得られるアイテムはより足首を縛る紐であったり、補助的なものであった。多くのチームが時間内に課題を解決することができ、多くのアイテムを取得できた。

プログラム終了後は、1時間程度、チームごとで振り返りを行い、反省点や改善点について時間をかけて話し合った。その後、全体での振り返りを行った。

3.2 プログラム開発における学生への効果

終了後、プログラム開発にあたった学生は「自らプログラムを作成する側になってみて、愛媛大学での厳しいプログラムをこなすことへの意味を再確認できた」、「なんであんなに不条理なプログラムをするのかと理解できなかったが、意図的に負荷をかけられることで、どのように解決するかを自分だけでなく、チームでどのように解決するかを学んだ」などの意見が多く聞かれた。

参加者の感想では、チームで意識的にかかわることで、自分の役割を見出すことができたとコメントしている。サマースクール実施後も学生同士、交流を深め、それぞれに影響を与え合っている様子が見られる。さらに、それぞれのリーダーズ・サマースクールに参加した学生たちは、その後、リーダーについて学ぶことの重要性を感じ、就職支援室で開催された松下幸之助のリーダーシップについて学ぶ講義を積極的に受講し、リーダーシップについて意欲的に学ぶ姿が見受けられた。実践的なリーダーシップについて学び、さらには知的なリーダーシップについて学ぶ機会を持った。

また、リーダーズ・サマースクールがきつ

かけで、山口大学版のリーダーズ・サマースクールの参加者が今後は「プログラム企画」の運営側になり、2月にウインター・スクールの開催も準備をしており、学生一人ひとりがさらなるリーダーシップ力育成を目指し、活動の継続を図っている。

4 今後の課題

今年度は1度のリーダーズスクールの実施を行い、さらには、2度目のリーダーズスクールの開催の検討を行っている。多くの学生が興味関心を持ち、参加者として参加したのち、スタッフとして参加することで、より深い学びが得られることが学生から意見として聞かれた。今後は、さらなる学びを広げるため、学内の専門家への協力や学生が活動しやすいように学生自主活動ルームとしても、支援を行うことが必要とされる。学生が自ら学び、知識だけでなく知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能を自ら学ぶ機会の提供を積極的に行っていきたいと考えている。

謝辞

本稿における活動は、山口大学後援財団の支援により実施しました。

参考文献：

4（島根大学・山口大学・高知大学・愛媛大学）大学間教育研究交流協議会 関係資料
文部科学省HP